



Online & Real

オラツー東北!

ONLINE TOUR TOHOKU

オンラインで楽しもう!
リアルに楽しもう!

オラツー東北! オンライン体験活用に係るマニュアル 【2023年度】

制作：東北連携オンライン観光コンソーシアム・仙台市文化観光局東北連携推進室

本マニュアルの目次

0. はじめに

1. オンライン体験とは何か

2. オンライン体験をはじめるにあたり必要なもの

3. オンライン体験造成・販売の流れとポイント

4. オンライン体験実施の方法

はじめに – 本マニュアルの目的

- 仙台市は、**2021年度～2023年度**にかけて「デジタルで人と地域をつなぐオンライン観光等推進事業」を行ってきました。当該事業を通じ、オンラインで魅力発信することの手軽さと可能性を確認することが出来ました。
- 本マニュアルは、**2024年度以降**も希望する事業者がオンライン体験を実施していくことが出来るよう、当該事業の中で培ってきた、オンライン体験の造成・実施のポイントをまとめたものです
- 但し、オンライン体験実施にあたっては、一定のITリテラシーが求められます。そうした中で、インターネットやソフトウェアの使い方の基本からについては、量が膨大になり、本マニュアルの趣旨が分かりづらくなる上、そういった専門書・参考サイトが多数存在することから説明を割愛いたします。
- 読者の皆様にITリテラシーがある程度あることおよび試行錯誤をしていくことを前提に、**3年間の「デジタルで人と地域をつなぐオンライン観光等推進事業」**で見えた要点を中心にまとめていることをご了承ください。
- **2021年度**はコロナ禍で人流が停滞し、**2022年度後半**から水際対策も緩和され、**2023年度**にはコロナが5類に移行したことで、リアルな人流が戻ってきました。それでも遠隔地で、顔が見える形で情報発信が出来ることは、オンライン体験の魅力でもあります。是非本マニュアルを各地の魅力発信にご活用ください。

はじめに – 「オラツー東北！」とは

- 「オラツー東北！」とは、「地場産品の消費拡大を目指すとともに、東北のファンを創出し、交流人口の拡大を図る」ことを目的に仙台市が、2021年度～2023年度にかけて実施してきた「デジタルで人と地域をつなぐオンライン観光等推進事業」におけるオンラインツアー・リアルツアーのブランド名です。
- 2021年度～2023年度にかけて約90本のオンラインツアーを実施し、テーマから実施形態まで様々な試行錯誤を重ねて実施してきました。



目次

0. はじめに

1. オンライン体験とは何か

2. オンライン体験をはじめるにあたり必要なもの

3. オンライン体験造成・販売の流れとポイント

4. オンライン体験実施のポイント

オンライン体験

≠

通常の体験のオンライン化

体験の魅力の再現性

オンライン体験でどう『醍醐味』を再現するかが鍵

オンラインで再現不可

奥行き感ある綺麗な景色

四季の香り

現地ならではの音

肌で感じる空気感

行ったことの達成感

⋮

オンラインで再現可

人との触れ合い

美味しい食事

地域の楽しさ

非日常感

家の様子

周りの様子

⋮

- ✓ 「人との触れ合い」に関しては、普段会えない方に登場してもらう、チャットや音声で双方向のコミュニケーションで実現することが可能。「美味しい食事」は物流の発達に伴って、様々な地域の食を日本全国に届けることが出来る。
- ✓ 単に物販するだけでなく「人(生産者)との触れ合い」×「食」と掛け合わせることで、「楽しさ」や「非日常感に繋げることが出来る」

オンライン体験の強みと課題

オンライン体験の強みを活かしながら考える

オンラインのデメリット

二次元である
匂いや空気感は届かない
周りに気の散るものが多い
⋮

オンラインの強み

時空を超えることが出来る
(ゲスト・ホスト共に)
アーカイブ化できる
人数の制限がない
映像等を活用しやすい
リアルで入れない場所にも入れる
(セキュリティ・衛生面上)
⋮

- ✓ 東北において、幹線道路・公共交通機関が十分に整備されている場所以外はアクセスに時間を要する中で「時空を超えることが出来る」というのは、現地の様子を知ってもらう上でオンライン体験の大きな強みとなってくる
- ✓ また、酒蔵の中の様子等、リアルで入れない場所の魅力を伝えることが出来るのも大きい
- ✓ なお、アーカイブ化ができるので、動画閲覧サイト等に挙げておくことで、オンライン体験実施以降に関しても情報発信効果があり、資産となっていく

「オンライン体験は 新しい関係人口創出のツール」

- 手軽にできる/気軽に参加できる
- いつでもできる/いつでも見れる

オンライン体験の効果

強みを活かすことで新しい可能性が広がる

- つながりの創出
 - オンラインにより人と人、地域と地域を結ぶ懸け橋となる
 - 普段なかなか行けない場所、会えない人に会って多くを学ぶ
 - 全国から地域のファンを醸成し、現地に行くきっかけをつくる
 - 実際に現地に行く旅行を造成し、ファンに向けて実施する
- 収益化・物産品プロモーション
 - オンラインならではのツアーで収益化につなげる
 - 地域の特産物をセットで販売。地域の経済応援に繋げる
 - ストーリーを通じて物産品を知ってもらうことで、リピートに繋げる
- 新しい価値
 - 新しいエンタメの形を提案する
 - 旅行の新しい楽しみスタイルを変える

目次

0. はじめに

1. オンライン体験とは何か

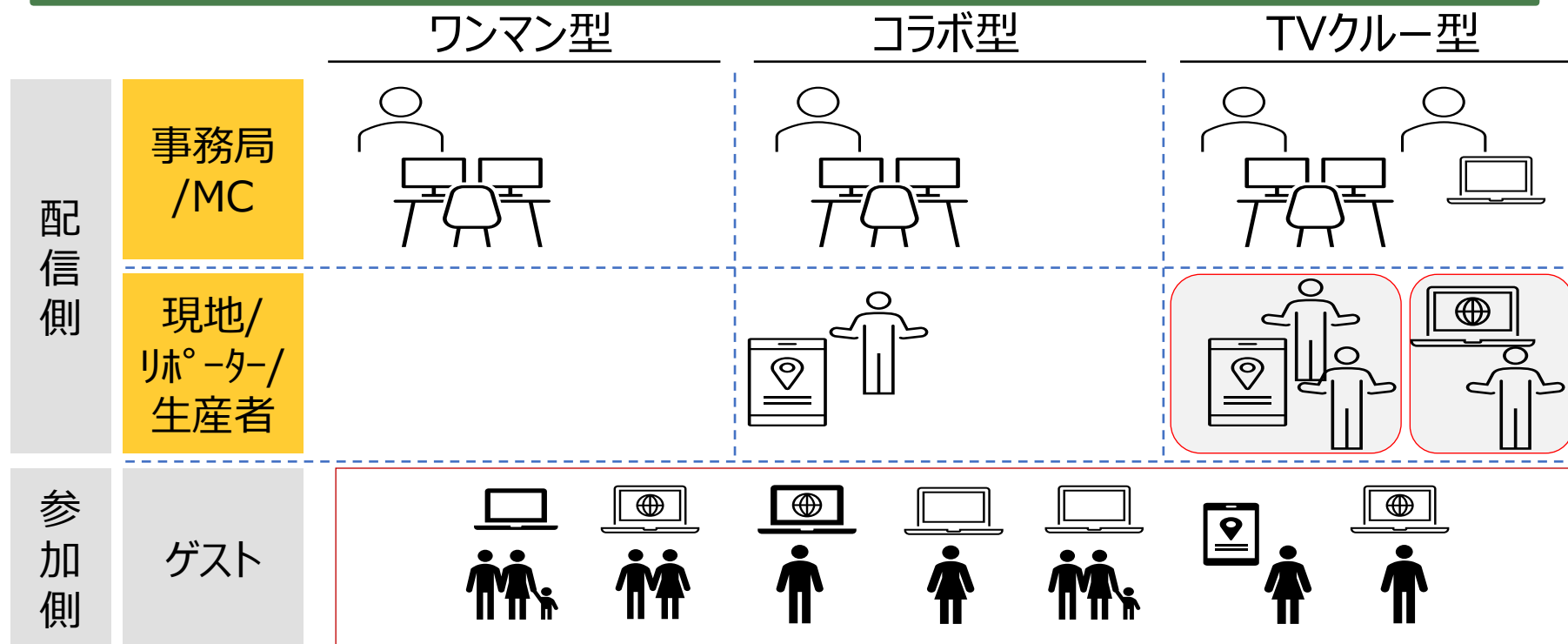
2. オンライン体験をはじめるにあたり必要なもの

3. オンライン体験造成・販売の流れとポイント

4. オンライン体験実施のポイント

オンライン体験の実施体制

パソコン1台・スマホ1つからでも始めることが可能
予算や目的に応じて、実施体制を決める



- ✓ 体制や機材が充実するほど、テレビ番組のような質に近づくことは出来るが、予算には限りがある。限られた予算をどこに充当するとより魅力が伝えられるか、によって体制を考える。
- ✓ 人流が停滞しており、事業者が時間的に余裕があった2021年度・2022年度は、コラボ型や複数拠点から配信するTVクルー型の体制でも配信を行っていたが、2023年度は、ワンマン型やコラボ型中心に配信を行った。コラボ型においても、リアルタイムで外の現地の様子をお届けするだけではなく、オンライン対談のような形も多かった。

オンライン体験の実施体制

体制に応じた柔軟な運営が可能

事務局 /MC

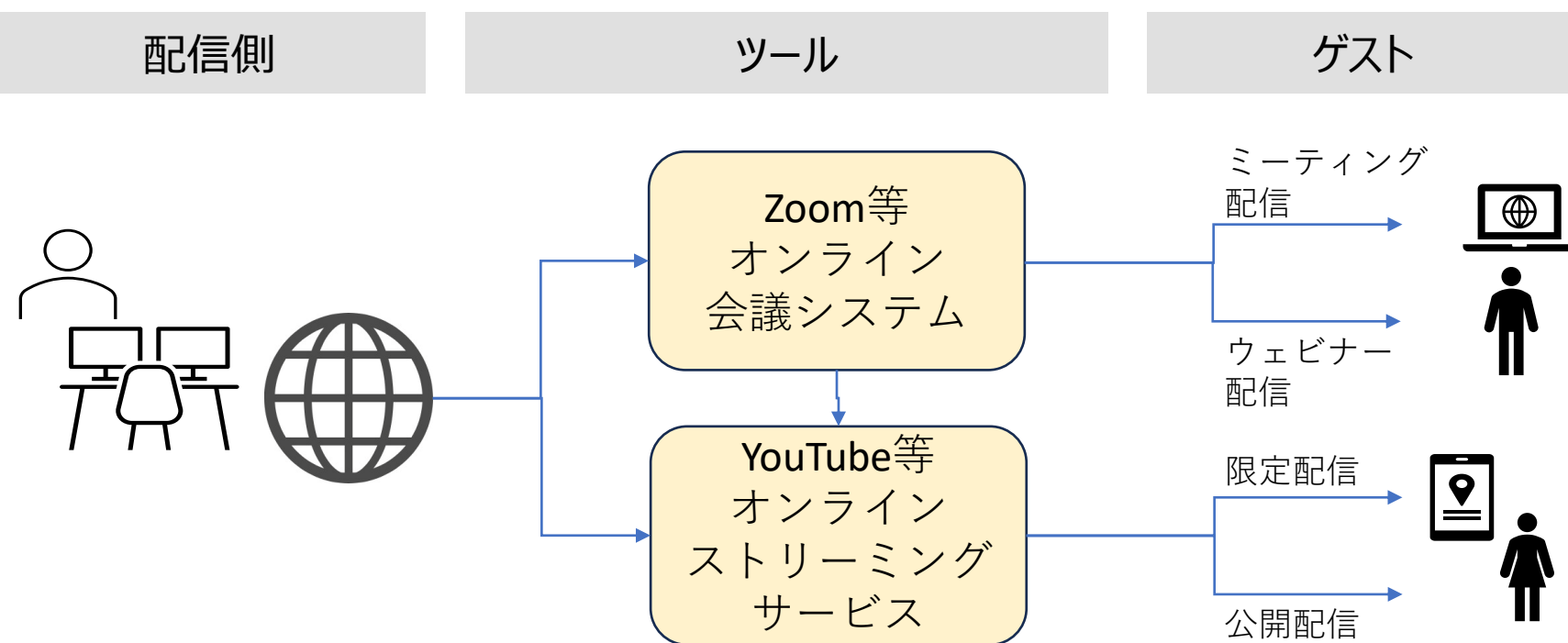
- 人数：1-2名
 - 遅刻者対応のため、「参加人数が多い場合」「MCの役割が大きい場合」には2名体制でいたほうが安心
- 機材：PC（+優先Wi-fi接続+デュアルディスプレイ+サブPC/携帯）
 - ホストが落ちるのは絶対NG
 - 画面共有等の際に、参加者の反応を把握するため、ディスプレイは追加でセット
 - ゲストからどう見えているかを確認するためサブPCがあるとベター

現地/ リポーター/ 生産者

- 人数：0名～
 - 最初、誰かと一緒の方が進行はしやすい。動く場合は2名～
- 機材：PC（+有線Wi-fi接続+デュアルディスプレイ+サブPC/携帯）または電波のいい携帯（+三脚/スタビライザー+イヤホンマイク）
 - 画質と音質がオンライン体験の肝だが、Zoom等を通すと画素は落ちるので、高性能のカメラである必要はない
 - ただ、映像が揺れたりすると参加者が酔うので、Liveして動く際にはスタビライザー等が必要

オンライン体験の実施・配信形態

会議システムやストリーミングサービス等を活用し、
配信先の多寡・双方向性の有無等多様な形態がある



- ✓ 「オラツー東北！」において、2021年度2022年度は、会議システムを活用してオンライン体験を実施してきた。ミーティング配信では双方向にコミュニケーションが取ることが出来るとともに、登録時にゲストの情報を収集できることも一つのメリットではあった。
- ✓ 2023年度は、オンラインストリーミングサービスを活用し公開配信を実施した。双方向性や参加者の情報収集という点に課題があるが、登録せずに見ることが出来るという手軽さやアーカイブの二次活用等のメリットがある。

オンライン体験実施にあたり必要なもの

必要に応じて拡充をしていくのが良い

必ず必要なもの

- パソコン・スマホ
 - 資料の共有を行う場合はパソコン
 - 大人数の場合CPUがi7だとZoomで49人まで同時表示が可能
- カメラ
 - パソコン・スマホ内蔵で十分
- ネットワーク環境
 - 有線だと安定度アップ
- 配信アカウント
 - Zoomアカウント等の会議システムやYouTubeアカウント等のストリーミングサービス

あればよいもの

- マイク・イヤホン
 - 音はとても大事
- デュアルディスプレイ
 - 2画面あると進行が快適
- サブPC・スマホ
 - ゲストの見え方を確認可能
 - 他スタッフとメッセージ可能
- カメラ
 - 外付けで一眼を繋ぐと解像度UP
 - 歩きながらLive/撮影するためにはジンバル・スタビライザーが必須
- スイッチャー
 - 画面の切替等をスムーズに行うことが可能